



静岡県消防協会が昭和五十年から実施してきた小型ポンプ操法が平成十一年度より、それ迄の空操法から実践の水出し操法となる。新規の機械器具も一式揃い、一日も早い新操法の習得をすべく、ポンプ指導員が一丸となって全国操法大会、清庵支部大会の見学会、富士支部研修等を重ね、市役所駐車場等での水出しの実践訓練と水出し形式の空操法を積んできているところである。しかし夜間の訓練は水利確保、エンジンの騒音等で場所の確保が課題となる「水出し小型ポンプ操法は「操作始め」の号令からポンプの起動、ホースの連結、放水による標的の消火に至るまで四十五秒以内、如何に安全を確保し行動、動作が迅速かつ節度正しく行われるかを競うのである。」今後も試行錯誤の中で更に努力精進を重ね、小型ポンプ指導員としての使命と新たな決意をもって「こと」にあたっていく所存です。

水出し操法に向けて

団本部 訓練指導員 後藤 正明

訓練礼式指導員として

第六分団 部長 梶屋 根

訓練礼式の目的とは、隊員を諸制式に熟練させ、その部隊行動を確実軽快にし、厳正な規律を身につけさせ、消防諸般の要求に適応させるための基礎を作り、礼節を明らかにし、規律を正し、隊員の品位の向上を図ると共に、和衷協同して隊員の団結を強固にし、もって消防一体の実をあげることにあります。

これに基づき、各個訓練、部隊訓練等の基本動作を隊員に熟練させ、訓練大会が実施されていますが、全国大会がなく唯一静岡県だけで実施されており、

しかし昨今、消防団全体の問題点である団員の減少による隊員の確保、訓練会場、日程等問題点が多々あり実施に向けて大変だと思えます。小隊訓練も以前は三十人編成で行われていましたが、現在は二十人編成に

富士市消防団

ラッパ隊

第十六分団 ラッパ隊副隊長 近藤 保文

富士市消防団ラッパ隊は昭和六十二年四月高田良一隊長以下総勢二十五名で発足しました。現在十二年目になります。ラッパ隊は消防団の儀仗隊として消防団活動の式典において儀礼や士気高揚、命令伝達などをラッパ隊の吹奏により行います。又、消防団の広報活動として各種の催し物に参加しています。主な出

変化した大会内容も少しずつ改正されているものの、訓練礼式部門の中止がとりざたされて心配しております。が、審査要領改正等により実施される模様であり、その必要性はだれしもが認めるどころか考えています。

また平成十一年度の県査閲大会に向け、富士支部でも富士市を開催地として支部大会が行われ、優勝隊が県大会に出場します。

富士市では、方面隊単位で編成された各分団の選抜代表選手のため、一堂に会して練習することは極めて難しく、一人でも欠員が出ると練習の成果が上げられません。代表選手は仕事等諸般の事情で多忙とは思いますが、個々に責任感を持って、大会に望んでほしいと思います。

我々訓練礼式指導員も、皆様の期待に応えるべく、大会に向けて検討を重ね、消防団を背負う若い世代の気持ちを考慮し、より向上出来るよう、諸先輩の教えと自分たちの知り得る経験を生かして、今後の指導に心掛け頑張っていく覚悟でございます。

消防団員になって思う

第二十六分団 班長 目黒 彰

平成二年五月に入団し、すでに八年以上がたった。今振り返ってみると、入団のきっかけというのが父の勧めで、「消防団に入って地域の人と親しくなれ。」この一言で入団、正直のところ嫌々ながらでした。

当時、私は二十歳を過ぎたばかりで、詰所へ行っても年上のおじさんばかりで、つい友人と一緒に遊びに出掛けてしまい、最初の二三年は年間を通じて一日か二日詰所へ、ただ時間つぶしに行く程度でした。

そんな時、現在は退団なされた先輩方から話し掛けて頂き、よく指導を受け、平成七年の訓練大会では訓練礼式で優勝する事ができました。また少しづつ消防団の行事である、

分団から選出され、分団、方面隊の代表だという自覚で練習に励んでいます。

しかし、ラッパ隊の活動は他の団員によく知られていないので分からないかと思いが案内申し上げる次第です。そして、各分団ラッパ隊員に御理解と御支援をよろしく願っています。

現在ラッパ隊員を十名募集しています。吹奏楽の経験がなくても結構です。で意欲のある人は各分団長、方面隊長を通じて申し込んで下さい。又、もっと詳しくお知りになりたい方は、毎週木曜日午後七時半から九時まで消防本部三階中会議室まで直接見学に来て下さい。



消防まつり、消防出初式、防災訓練、各講習などに参加したり、火災現場での消火活動や訓練大会に向けてのポンプ操法の練習を仲間と重ねているうちに、いつのまにか毎月詰所へ行って仲間と顔を合わせるのが楽しみになりました。

現在では私も、班長になり分団の中でも副機関員を任せられています。以前とは団員の顔ぶれも、すっかり変わり、私よりも年の若い団員達が入団して来るようになりました。

これからは、私に消防団活動を教えて下さった先輩方に代わり自分が若い団員達を指導していかねければという気持ちを感ずいています。

今以上の消防団活動にする為に個々の信頼関係を一層深めていきたいと思えます。

新入団員教育

第一分団 団員

大谷 和彦

平成十年五月に新入団員教育を受

講しました。開講式の後、責任と心構えの研修を受け、改めて消防活動の大切な事、そして団員一人一人が責任を持ち行動しなければと実感しました。研修室での講義も終了し、次に団体での規律訓練、訓練の中で最初に感じた事は指導員の方々の指の先まで力が入った素早い行動でした。自分の手の位置、指の先、足の開き方など意識していてもなかなか上手にいきません。少しずつ指導員に直してもらいながら団体全体がまとまりのある行動ができた時、気分が良く、やりがいがあると思えました。

その後、大型、小型ポンプ操作の実習、この時指導員の方々の全力でホースを延ばし走る姿を見て、自分たちはできるのか心配になりました。実際火災現場でも素早く確実な行

心からのご苦労様

第七分団 班長 山口 豊

家族 山口 裕加

ティーン、ティーン、「ただ今、火災が・・・」の広報が流れると私のお父さんは、あつという間に、カッコイイ消防団員に変身します。普段は会社で営業マンとして働く父は仕事で疲れて帰ると、夕食を済ませ茶の間でゴロンと寝てしまい私が起こしても、なかなか起きてくれません。

動ができるように、訓練を繰り返してやっつけようと思いました。新入団員教育の開講式において新入団員を代表して団長から終了証をいただいた時、これから消防団活動に、責任と素早い行動を心掛けていこうと決めました。



でも、火災発生となると別人です。反射的に着替始める父を手伝いタオルを用意、玄関に皮の長靴を揃え、車のキーを渡します。「気をつけてね」の声で真剣な顔をした父を送り出します。

真夜中の出勤や、鎮火に時間がかかる火災の時は、怪我してないだろうかと心配でたまりません。「朝まであと二時間は寝れるな。」と、言いながら布団に入る父を見て心から「苦労様でした」と思います。私が小さい頃には大会の訓練でひどい筋肉痛になったり、すり傷がいっぱいで(かわいそうだなあー)と、

救急講習

第九分団 部長

佐藤 彰信

「おじいさん、大丈夫ですか？」

「誰か救急車を呼んで下さい！」と一人ずつ、すばらしい機能のついた人形を使用した救命講習の時、私は次男の幼い時のことを思い出していた。

それは、雨上りの蒸し暑い朝、「トッキは？」その辺にいますでしょ」と忙しそうに妻の声。だが、その辺

いつも思っていました。最近はお肉のゴムの上に少しかけたらむお肉が気になる年になったせいか、若い頃のようなきびしい訓練はしていませんが、自分が消防団の先輩から教えていただいた事を若いお兄さん達に伝えるために訓練のお手伝いに進んで参加しています。

厳しい訓練できた責任感で直接教えてくれるお父さんは私の自慢です。

【自分たちの街は自分たちで守る】を合言葉に、所属する第七分団のおじいさん、お兄さん達と協力して火災から私たちを守ってくれる頼もしいお父さんをお手本に、私も学校や家庭で話し合いの場をもち、自分でできる火の用心を心掛けようと思えます。

秋、冬の季節が来ると地区行事や消防まつりへの参加、火災予防運動などますます忙しくなると大変だけれど、危険を伴う消火活動には十分に気をつけて、これからは七十分団で活躍してほしいと思います。

どころか何処にもいなく、(まさか...)と風呂場を覗いて見たがいない。(よかつた)着替えをし一息していたが、未だにその辺に姿がない。子供の生命力が私を呼んだのか、いつか私は風呂場の前に立っていた。

その時、かすかに「コトツ」と音がした。もしかして...と重なった板を取ると、うつ伏せになった状態で浮いていた。慌てて抱き起こした時、手足が固まって、「飛行機」をしている様だった。顔は青白く、目は半開き、内心ダメだと思った。

「トッキー! トッキー!」私の異常な声に、妻と近所の人たちが駆けつけてきた。わけも分からず叫び、叩いていた。「口から息を吹き込んだら?」の助言に、すぐに口から息を吹き込み、また吸い取り、また吹き込んだ。(助けてくれ、なんとか助かってくれと願いを込めながら)

何度か繰り返している時、「ズルズル」と鼻が出る音がした。助かった。

二十四分団に入団したある日の出来事

第二十四分団 団員 植松 芳典

家族 植松 直美

昨年の四月から二十四分団に入団した主人。

新しい作業服を持ち帰って来ました。その夜、我家始まって以来のファッションショーが開かれました。私がカメラマン、モデルは勿論主人です。新品の作業服を着てポーズ。それを見ていた息子も帽子をかぶりポーズ。こうして主人の消防団員としての活動が始まりました。主人が消防団員になるうと思っただけは、若いとき地域の人達に迷惑を掛けたぶん

うれしかった。まもなく口からも少しの水らしきものを吐き出して、自力で呼吸を始めた。すぐに病院の手当を受けた後、半日ほどぐっすり寝ていた時、このまま植物人間の様になったら...、また、何らかの障害が出るのではないかと心配したが、そんな心配をよそに、今は元気な野球少年になって、来年は成人式を迎えることができるまでに成長した。うれしいことである。

貴重な実体験と、今回の講習と重ねて、何らかの役に立てばと思います。我が九分団は、火災・天災の他に山岳救助の活動もあるので、三角巾の使用方法も知っていると大変便利だと思いが、すぐに忘れてしまうのが難点かな。しかし、普通救命講習終了証をもらったからには、少しは自信を持って役立てていきたいと思えます。

今度は、自分が地域の人の為に来る事をしようと思っただけでした。そんな彼の、初めての出勤は午前四時ごろ、広報が流れ、熟睡していたはずなのに「二十四分団出勤」と聞くなり、パット着替え「行ってくるヨ」と出掛けて行きました。その時、私は、火災現場も近かったこともあり、消防車のサイレンを聞きながらドキドキしてしまいました。冬の夜警、出初式、それにまだまだ知らない活動もありますが、これからは地域の為に頑張ってもらいたいと思えます。



家族の協力

第二十分団 団員

山崎 容穂

消防団に入団し、早いもので八年が経ちました。この八年の中で私が一番感じたことは、富士市内の火災が非常に多かったことです。

多分、私が入団する前とあまり火災の件数は変わっていないと思いますので、自分の中の「火災」に対する意識の違いだと思えますが、入団前は広報の放送も「どこで火災かな」程度しか感じていませんでしたが、今は、「うちの分団は出場か?」と、広報が鳴った瞬間から緊張し、夜中でも目が冴えてしまう程です。この緊張感は消防団員にならなければ経験できないと思います。でも、この緊張感(緊迫感)を長い時間持続させるのは、かなりの精神力が必要と思われます。冬の寒い日の火災や真夜中、明け方の火災など、体力的にも精神的にもつらい時に多く発生します。一度出動すればその大変さがよくわかると思います。

ですから、年頭の出初式の際、十五年、二十五年、三十五年と長年の功績を表彰される方々は大変忍耐力の強い人と感心させられます。また、忘れてはいけないのが家族

消防団員家族協力推進懇談会

平成11年2月16日(火)
於: ホワイトパレス

日頃から消防団活動に協力されている団員家族の労をねぎらうと共に、消防関係者との意見交換を行い、今後の消防団運営の円滑化を図る目的で、盛大に開催されました。



の協力だと思えます。きつと長年にわたり消防団活動に頑張られたのは、奥さんの理解であり、またその家族協力があつたからこそと思えます。実は私もこれまで頑張れたのは妻と家族の協力があつたからです。

火災発生の広報が鳴り、私が作業服に着替え始めれば、すかさず妻が車庫のシャッターを開け、少しでも早く詰所へ向かえるよう配慮してくれます。また、真冬の夜の出場の時は、冷えた体をすぐに暖めようと湯タンポを布団に入れて置いてくれました。ちよつとした事ですが私には大変励みになります。

富士市の消防団員が何百人いるかわかりませんが皆ボランティアであり、又、その家族も同じボランティアだと思えます。これからいつまで消防団員としてやって行けるかわかりませんが、陰で支えてくれている家族への感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。

私の思う消防団

第二十二分団 団員 渡辺 政人

家族 渡辺 彩

私の父は消防団に入っています。父が消防団に入るまでは「消防団」という名がらしか知らずあまり活動などわかりませんでした。

しかし、今は消防団の苦勞や楽しさがわかるような気がします。消防団イコール消火活動って感じがしますよね。けどちがうんです。消火活動、火災予防の呼びかけはもちろんのこと、「消防まつり」「出初式」「ソフボール大会」「放水訓練」など皆さんが知らない活動をいろいろ行っているのです。よく消防団のことをよく言わない人がいますが、私はちがうと思えます。そういうことを言う人は消防団のことを良く知らない人です。冬の寒期中、早朝訓練を行い、冷たい水を使って放水訓練をしているのです。また火災がおきれば

夜中でも消火活動をしなくてはいけないのです。火災が多い冬はとくに夜間巡視を行い、少しでも火事が減るようにと、いろいろ工夫しているのです。だから私たちも安心して生活を送ることができるよう忘れてはいけないと思えます。

『退団して思ったこと』

元第二十五分団 分団長

山口英四郎

平成十年三月三十一日をもって、富士市消防団員を免ぜられました。三十年六月よく無事に何事もなく勤め上げられたものだったのが私の実感でした。

私が入団した当時は、まだ青年団や若い人達が集まって、何か行事をやる事が多かったと思えます。そういう中から消防団への参加という機会が生まれました。今は個人

分団長になって

第二分団 分団長

井出 晴和

二分団長として命を受けて、早二年近くになりますが、素晴らしい仲間達に囲まれて、ここまで来れたと思つて居ります。

で行動をする人達が増え、皆で一つの事を行うという事が減っています。こういう世相だから、団体活動の消防団への参加が遠ざかっていっているように思えます。

団活動の中のメリットは、たくさんあります。団員個人はそれぞれの自分の生活を持っていて、環境も考え方も違うのです。そういう仲間が集まって消防団活動という一つの目的に向かって、何かをやるとう協力し合う事から生まれる人間関係です。私も入団以来三十年余り、仕事と消防団活動という生活の中で家族

ただ一つ悩みとして頭を離れない事は団員不足で、この分団でも団員が減少にあると思えます。わが二分団も現在二名の欠員で二十八名です。私が入団した当時には考えられませんが、昔は十六才になると青年団に入り、やがて家のあととりは消防団や水防団に必ず入り、横のつながりがしっかりしていたと思えます。

しかし、今は学校を卒業してしまえば地域とのつながりなどはほとんど無いように思われます。地域に残る者にとつて、消防団というものが、仕事上以外の友達と交流を図る場として、素晴らしい組織であることを若い人に伝えて行きたいと思えます。

消防に入っていると、火災出動、訓練と、人より負担が多くなり大変だからイヤだと言うのではなく、それ以上に精神的に得るものが多いという事を、少しでも多くの若い人達に、分かってもらえればこんなに嬉しいことはありません。

や回りの人達の理解により、過ごしてきました。消防団での思い出は多々あります。訓練大会、ソフボール大会などでの優勝や失敗、火災出動での消火作業等です。

なかでも滅多に経験することがない昭和五十七年四月、二十五番目の分団新設に団員の一人として、参加できたことでした。団活動の一線を退きますが、消防団の重要性、素晴らしい事は十分に分かっているつもりです。団員確保の事など、常に頭に置いてるつもりです。消防団の事を忘れないようにしたいと思います。

消防団員に

任命されて

第四分団 班長

中山 秀昭

消防団員に任命されて今年で満十

五年になり、去年の出初式で、名誉ある勤続功労章を授かりました。残念ながら出初式には、母の他界により参加出来ませんでした。消防団に入団して大変良かったと、入団した頃のことを思い出している今日この頃です。私が入団したきっかけは、勿論先輩の誘いが有ったからですが、「何とか地域の人と交流を深めたい」との思いからでした。と言うのも私は、青森県出身で四分団の管轄である今泉に来て僅か三年しか経っていません。縁あって富士市に来た訳ですが、今泉の右も左も解らない私は一つ返事で入団することにしました。入団した当時の私は昼夜二交代の勤務だったので分団の行事には夜勤の時殆ど参加しませんでした。これは、努力すれば参加出来たのですが、先輩から誘いを受けた時「出られる時出れば良いから」と言われたので、参加出来ないのは仕方

方がないという甘えがあったからだと思います。今、みんなに大変迷惑を掛けたい事を反省すると共に、団員の勧誘時には、分団員の役割と責任を充分説明し、理解させ、納得させた上で入団してもらいたいと思っています。

その他いろいろな事を思い出します。消防まつり、家族慰安、分団の行事、私にとっては良い思い出ばかりです。しかしいやな事もあります。それは「消防は酒を飲むだけ」と言われた時です。私も含めて、「地域住民の生命と財産を守る」という使命感、又は、ボランティア精神で頑張っている人も大勢いると思います。生意気な事を言う様ですが、そう思われないように、消防団員全員が襟を正していく必要があると考えます。

私は現在、方面隊の訓練礼式指導員を仰せつかっております。早いもので四年目を迎え、その重責を思いしらされております。今後も訓練に精進し、みんなに信頼される指導員になれるよう頑張っていく所存です。皆様方の叱咤激励をお願い致します。私の消防団員としての思いを綴らせて頂きます。

消防まつり

第二十三分団 班長

長谷川裕則

第十二回消防まつりが、市役所駐車場にて盛大に開催されました。

各分団、毎年工夫を凝らした模擬店を開きますが、わが分団は第一回消防まつりより、ラーメンを販売しております。

恒例！七面山改め身延山登山

第十四分団 団員

橋本 和己

六月十四日、十四分団恒例の七面山登山の日がやって来ました。

この七面山登山というのは、何十年前の先輩方の県査閲大会の入賞のお礼参りが始まりと聞きました。

七面山は一九八二メートルの山で、初めて登る山に不安をいだいていました。しかし、当日はあいにくの雨、正直「これで登山はしなくてもよいかな。」と、ホッとしていました。『いまままで身延まで行かなかった事は無い。』と言われ、朝の五時に詰所に集合しました。ほとんどの団員が参加し、身延入りしましたが、やはりこちらも雨。

消防団活動への活力

第十分団 団員

中村 勝

入団五年目を迎えて一応消防団活動の年間行事をある程度経験し、内容を把握出来たレベルですが今思うと五年もかかっていることで、実際の活動に對しあまり良い活動実績ではないと感じています。

今回、消防団だよりの原稿の話が来て、すぐ頭に思い浮かんだのが、自分自身に「今、消防団に在籍しているのは何故か？」でした。そこでこのテーマについて書き記す事にしました。

◆活力その一・・・家族
子供達で一番下の長女は十分団の

七面山はちよつとつらいだろうという事で、身延山奥之院を目指すことになりました。こちらは標高一一五三メートルと七面山の約半分ですが、以前一度だけ登った事があり、最後の方は結構キツかったという記憶があります。さていよいよ登山開始です。最初は横一線、出だしはみんな一緒です。しかし五分も登ると、トップと最後尾と、集団が別れてきました。私は由緒正しいスキーヤーなので、オフシーズンもトレーニングを欠かしません。もちろんトップ集団です。みんな雨に濡れ、汗でびしょぬれになりながら全員無事に山頂までたどり着きました。

私は入団一年三ヶ月ですが、トレーニングを休んでいる時期に、二度目の火災出場があり、製紙会社の工場火災の消火に、百メートル程のホー

バツジをみて「十円玉ちょうだい」と言うし、長男・次男も消防団活動についての会話をしても目を輝かせる事は無いものの、身近な団員の人と接したり、報道には瞬間的に関心を持っている様です。妻ともあらためて、消防についての会話は無いものの仕事へ行く時よりも消防へ行く時の方が「いつてらっしゃい・・・」気をつけて」という言葉が多い様です。

◆活力その二・・・地域のなかに自分がある。
これは私の自己満足ですが、地域の中に自分がある事を強く感じています。そして、何かにつけてよく「自分一人では何も出来なく、回りの人の協力・・・」という言葉が耳にしますが、まさしく消防団活動はそれ

ス延長をした事がありました。何度もポンプ車と火点の近くを、ホース担ぎと伝達の為に往復しました。この時、心臓が破裂しそうになり、息が切れそうになった事を、いまでも思い出します。ですから、消防団の活動というのはボランティアとはいえず、個人の日頃の体力作りが重要であることを、痛感しました。

また、この後帰りに、下部やまめの里や、本栖湖に寄りましたが、大自然と触れ合っ心が広くなり、お互いの気持ちが近づくので、チームワークの向上に、大きく役立つているのだと思います。このチームワークは、火災現場でも生かされるでしょう。そして、これからも消防活動には、できるだけ参加し、チームワーク向上に努め消防活動をしていきたいと思ひます。

◆活力その三・・・自分の気持ち
消防団活動に、ものすごく張り詰めている瞬間があり、その反面団員と和気あいあいの活動も年間を通して幾つもあります。この絶妙なバランスが楽しく・辛く・おもしろく自分の気持ちの活力となっています。

以上三つの活力も消防団活動を継続して行く活力と、プラスアルファを出せる活力となり前者・後者とも将来に向けてうまく活動できて行ければと思います。終りにこの掲載を何年後か目にした時、思い出して新たな活力を持っていることを楽しみにしています。

分団長紹介



第1分団
鈴木 勝男
吉原



第2分団
井出 靖和
津田



第3分団
石川 勉
伝法



第4分団
秋山 勝宏
今泉東



第5分団
山崎 三之
今泉西



第6分団
渡辺 誠一
神戸



第7分団
米山 享範
原田



第8分団
鈴木 茂明
吉永



第9分団
山田 悟
須津



第10分団
久保倉紀久
元吉



第11分団
鈴木 正美
吉永北



第12分団
福田 純司
大淵



第13分団
佐藤 豊
富士本町



第14分団
佐野 哲夫
蓼原



第15分団
小杉 章
中島



第16分団
太田 正二
横割



第17分団
吉村 秀久
柳島



第18分団
小林 秀己
田子



第19分団
稲葉 充雄
松岡



第20分団
佐野 勝英
岩本



第21分団
勝又 啓治
鷹岡



第22分団
後藤 和紀
厚原 丘



第23分団
勝亦 文雄
久沢



第24分団
前島 辰雄
天間



第25分団
杉山 仁
広見



第26分団
望月 信男
森島

団員募集

*今、若い人の力を消防団は求めています。
消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。

編集後記

皆様からの多数の原稿を頂き全て消防団だよりに掲載できました。広報委員一同心よりお礼申し上げます。消防団だよりが市民と消防団員を結ぶ掛け橋になればと期待します。

今回は地域の皆様、又消防団員にピアーールを兼ねて分団長紹介をさせて頂きました。広報委員も方面隊の代表としてより良い消防団の活動を掲載できますよう努力してまいります。今後ともご協力をお願い申し上げます。

富士市消防団広報紙編集委員

委員長

第六方面隊長 早坂千賀夫

副委員長

第十二分団副団長 長尾 文彦

委員

第二十五分団部長 青柳 唯一

委員

第十一分団班長 佐藤 勇次

委員

第十三分団班長 千葉 和男

委員

第十六分団団員 白井 浩司

委員

第二十二分団団員 大村日出生